

**GOD WITH US**  
Part 11: LATER LETTERS  
**Message 7 – Hebrews**  
The Supremacy of Christ  
**Hebrews 11-13**

神はわれらと共に

パート 11：後の手紙

第7メッセージ-ヘブル人への手紙

キリストの至高性

ヘブル人への手紙第11-13章

はじめに

ヘブル人への手紙は、一つの目覚ましい理由のために、キリストの至高性に焦点を当てています。それは、聴衆に困難な時代を耐え忍ぶよう呼びかけるためです。これは、彼らの偉大な神であり、大祭司であられるイエス様をより明確に理解することで可能になります。第1-10章では、イエス様が旧約聖書の宗教体系のあらゆる側面より優れておられる様々な点を強調しました。信仰によって忍耐し、告白を堅く保持し、後戻りしないようにという勧告が全体を通して見られました。手紙が結論へと向かうにつれて、信仰を貫くというテーマが前面に出てきます。著者は、地上で何が起ころうとも、神への信仰を維持することがいかに困難になろうとも、神を信頼し続ける信仰について説明します。重要な部分は、人生の様々な状況において、神への信仰による忍耐を發揮した旧約聖書の信仰の英雄たちがリストアップされている箇所

です。彼らは、目に見える世界における試練に耐えながら、目に見えない世界で待つ報酬に目を留めました。実際、すべてにおいて、最高の地位におられるイエス様は、その御前の報酬に照らし、生涯における父の御心に忠実であり続ける（罪の犠牲として、そのお命を差し出された）という究極の例を示されました（ヘブル 12：1,2）。

**永続的な信仰の例：第 11 章**

第 11 章は、手本として、神への信仰による忍耐を發揮した旧約聖書の信仰の英雄たちがリストアップされています。この章は、信仰の定義から始まります。

**信仰の定義：11：1,2**

**11:1** さて、信仰とは、望んでいる事がらを確認し、まだ見ていない事実を確認することである。**11:2** 昔の人たちは、この信仰のゆえに賞賛された。（ヘブル人 11：1，2）

「assurance / 保証」という言葉は、「to stand under / 下に立つ」という2つのギリシャ語の言葉から来ています。この言葉は、第3章12節の「falling / 落ちる」（「away / 離れる」）で用いられている言葉とは、正反対を意味します。真の信仰は、神の約束から「離れて」立つのではなく、神の約束の「下に立ち」ちます。確信を持って神のお約束を主張することができます。「確信」という言葉は、神のみ言に基づ

いた確実で、堂々たる信念を意味します。聖書的「信仰」は妄信ではなく、「信じられないことを信じる」ことでもなく、「盲目的な信仰的な飛躍」でもありません。むしろ、聖書的信仰は、「神のみ言、神のご性質、そして神のお約束に基づく堂々たる保証」です。聖書的信仰は、神のご人格における信頼性に根ざします。神のご人格によって、私たちは、神のみ言に確信（信仰、信頼）を置くことができます。神は「信頼できる」、あるいは私たちの信頼（信仰）に値するお方です。

### 天地創造からサラまでの永続的な信仰：11：3-12

ここで著者は、創世記の天地創造の物語へ移り、信仰の模範的な例を挙げています。

**11:3 信仰によって、わたしたちは、この世界が神の言葉で造られたのであり、したがって、見えるものは現れているものから出てきたのでないことを、悟るのである。（ヘブル11：3）**

創世記第1章は、世は神の発せられたことばによって形成されたと宣言しています。神は、「～があれ。」と神秘的な方法で語られました。私たちがこの真理を受け入れるのは「信仰によって」です。宇宙の起源を研究する科学者たちは、「ビッグバン」による説へと、私たちを案内するでしょう。聖書は、ビッグバンを超えて、神の力強いことばを通じて、創造的志向性とデザインをもって天地を創造された神に、信仰の目を向けるよう招いています。聖書学者たちは、宇宙

と地球の年齢において意見が異なりますが、両者とも、聖書が生命の起源の究極の疑問に答えていることに同意します。

神を信じるより、無神論者を選ぶ方が、より大きな「信仰」を要します。無神論者は、すべてがそれぞれを創造したと信じなければなりません。存在するすべてのものは、偶然発生し、過去の分子と力の無作為に衝突した結果、最終的に私たちが見たり、経験したりするすべてのものは、「自己設計プロセス」によって、もたらされたということになります。また、創造のプロセスは、「自然」で「非人格的」でなければならぬだけでなく、このプロセス内での私たちの存在には意味がありません。私たちの唯一の「目的」は、意味のある目的を達成するために前進または後退している分子の進行中の衝突において、事前に決定された役割を果たすことです。より「理にかなった」信仰によるステップは、完全な頭脳を持っておられる偉大な設計士によって、これらすべての実現を意図されていたことを認めることです。私は偶然ではなく、神のデザインによってここに存在しています。

アベル（創世記第4章）やエノク（創世記第5章）など、個人的信仰の例が続きます。彼らは、神とその永遠の王国という、目では見ることができなかった現実に照らして生きました。

**11:4 信仰によって、アベルはカインよりもまさったいけにえを神にささげ、信仰によって義なる者と認められた。神が、**

彼の供え物をよしとされたからである。彼は死んだが、信仰によって今もお話している。11:5 信仰によって、エノクは死を見ないように天に移された。神がお移しになったので、彼は見えなくなった。彼が移される前に、神に喜ばれた者と、あかしされていたからである。(ヘブル人11:4, 5)

カインが穀物のいけにえを捧げたのに対し、アベルは動物のいけにえを捧げたので、アベルのいけにえはカインのよりも「良い」とみなされたと提案する人もいます。これは本当かもしれませんが、後のレビ記第2章の教えによると、穀物のいけにえが神に受け入れられていたことを示しています(創世記とレビ記はモーセによって書かれたので、創世記4章が最初に読まれて解釈されたときに、穀物法が施行されていたことに注意する必要があります。)。アベルのいけにえを受け入れられるようにしたのは、彼のいけにえを神に捧げた際の彼の信仰の心であったことは確かです。一方、カインのいけにえは、信仰によらない宗教的行為(単なる義務感からの行為)である。となると、これは真の信仰を持っている人々が「信仰を公言している」だけの人々と対比されているヘブル人への手紙の文脈に当てはまります(参照:カインの姿勢について、第一ヨハネ3:12)。

エノクについては、「死ぬ前に神に取られた」という驚くべき事実以外は、ほとんど知らされていません(創世記5:24)。信仰によって、エノクは神との日々の交わりの中に生きていたので、地上における死の前に、神はエノクを永遠の王国に

連れて行かれました。(聖書の雑学:エノクとエリヤだけが聖書の中で死なずに天国に召された二人です。)

次は、神への信仰(信頼)の必要性についての簡潔で重要な声明です。

**11:6 信仰がなくては、神に喜ばれることはできない。なぜなら、神に来る者は、神のいますことと、ご自身を求める者に報いて下さることとを、必ず信じるはずだからである。**

(ヘブル人11:6)

なぜ信仰は神を喜ばせるのでしょうか? 信仰は、私たちが神を信頼し、神を敬いたいという心を示すからです。したがって、信仰は神への愛の表現です。

子我が子が自分の言葉に素直に従うとき、親なら誰でも喜ぶでしょう。子供が常に親の言葉を疑い、指示とは反対の方向に走るとき、親にとって、それ程不快なことはありません。究極的には、信仰(信頼)は、愛の関係の繋がりの表現です。この様に神は、神の子供たち(私たち)が神のみ言を信じ、私たちのいのちを神の御心に服従させるのを見られるとき、お喜になるのです。

信仰の模範は、ノア、アブラハム、サラへと続きます。ノアの信仰は、洪水がまだ見えていなくても、彼が何年にもわたって、巨大な箱舟を造った行動によって証明されました(聖書学者は、その期間を50年から120年と推定しています。)。神は、いつか

壊滅的な洪水が起こるとノアに警告されたので、ノアは、信仰によって箱舟を造りました。その行動は、将来について真実であると信じたことによって導かれました。ノアは、神への信仰をあざける人々と一緒に生活する必要がありました。ノアは、懐疑論者に信仰をもって、神に立ち返るように懇願しましたが、人々は彼のメッセージを無視しました。

アブラハムは、神の召しに従って祖先の土地（繁栄していたウルの町）を離れ、神がアブラハム自身と将来の子孫に約束してくださった土地へと信仰によって旅をしました（創世記12）。彼は約束の地について何も知らされず、行先で、どの様に祝福して下さるかについても知りませんでした。ただ知っていたのは、この信仰の旅に彼を召されたのは、神であるということだけでした。同様に、アブラハムの妻サラは、神が二人に未来を持っておられると信じて、信仰によって夫についてきました。さらに、通常の出産の年齢をはるかに超えても、神は、そのお約束に従って、彼女に子供を宿す力を与えてくださることを信じました。息子の約束が果たされるまで、25年間、信仰をもって待たなければなりませんでした。

### 信仰についての補足のコメント：11：13-16

次の補足の箇所は、おそらくこの全体の中で最も重要な部分でしょう。信仰の章では、「信仰」と実際に「約束のものを受け取る」こととの関係を説明しています。

**11:13** これらの人はみな、信仰をいだいて死んだ。まだ約束のものは受けていなかったが、はるかにそれを望み見て喜び、そして、地上では旅人であり寄留者であることを、自ら言いあらわした。 **11:14** そう言いあらわすことによって、彼らがふるさとを求めていることを示している。 **11:15** もしその出てきた所のことを考えていたなら、帰る機会があったであろう。 **11:16** しかし実際、彼らが望んでいたのは、もっと良い、天にあるふるさとであった。だから神は、彼らの神と呼ばれても、それを恥とはされなかった。事実、神は彼らのために、都を用意されていたのである。（ヘブル人11：13-16）

神の永遠のお目的と約束に関連して、これらの信仰の人々は、神の「永遠の目的と約束を見て、彼らの人生に受け入れられました。…そして、（地上において）天国の市民として生きる」と告白をしました。」彼らの人生は、将来について真実であると確信していたことによって導かれました。神がお約束された、すべてが地上で成就したわけではありましたが、彼らの神が人類のために持つておられる壮大な物語の一部であったことに気づきました。アベルは、兄のカインに殺されてしまいましたが、それでもカインは、神への信仰のために永遠の報酬を受け取りました。アブラハムとサラは、二人から生まれる「偉大な国家」を見ることなく死にましたが、その後の何世紀にもわたって、その偉大な国家は誕生しました。モーセは、「約束の土地」に足を踏み入れることはありません

んでしたが、彼が忠実に率いた国家は、その土地を相続しました。（参照：マタイ17：1-5、神の忠実な愛によって、モーセは、苦難の前のイエス様に会い、強めるために、エリヤと一緒に現れたとき、神のあわれみによって、約束の地に「足を踏み入れる」ことができませんでした。）信仰の人々は、皆、神のご人格と永遠のご計画とお目的を信頼しました。地上で物事がどの様に展開されたかに関係なく、彼らは神と天の神の御国に目を留めました。未来のお約束に照らして、現在に生きました。ウォーレン・ウィアーズ博士の言葉を借りると、これらの信仰の人々は「未来形で生きていた」のです。

「**11:15** もしその出てきた所のことを考えていたなら、帰る機会があったであろう。」とあります。これらの信仰の人々（アブラハムやサラ）には、神の召しを放棄し、元居た町に引き返すこともできました。同様に、ヘブル人たちは、イエス様に従い続けて、信仰告白に忠実であり続けるのではなく、以前の生活に立ち返りたいと考えていました。しかし、もし彼らが第11章の信仰の英雄たちの足跡をたどるなら、後戻りせず、むしろ彼らがどの様な迫害に合っているかに関係なく、神のご計画とお目的を追求することを押し進めるべきですと著者は勧告しています。

イエス様は、弟子たちと共に過ごされた最後の夜、人生は試練と苦難に満ちていると予告されました（ヨハネ16:33）。しかし、また、ご自身を信頼するようと言って、彼らを慰められました（ヨハネ14:1）。地上における人生は、しばしば予期

せぬ喪失、失望、時には途方もない痛みで満ちています。それでもイエス様は、私たちが永続的な信仰によって成長し、手放さないようにと忠告しておられます（たとえ、私たちに理解できなくても、公正だと思えないようなときでも）。神への忍耐強い信仰を行使し続ける必要がある領域における、あなたの最大の課題は何ですか？

ここで著者は、創世記の大部分を占める、族長、アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフの信仰に戻ります（第12章-第50章）。それぞれ、多くの点で挫折しましたが、それでも神のご計画と目的に歩み、神の約束を信じようとする姿勢を示す信仰による行動をとりました。

**11:17** 信仰によって、アブラハムは、試練を受けたとき、イサクをささげた。すなわち、約束を受けていた彼が、そのひとり子をささげたのである。**11:18** この子については、「イサクから出る者が、あなたの子孫と呼ばれるであろう」と言われていたのであった。**11:19** 彼は、神が死人の中から人をよみがえらせる力がある、と信じていたのである。だから彼は、いわば、イサクを生きかえして渡されたわけである。**11:20** 信仰によって、イサクは、きたるべきことについて、ヤコブとエサウとを祝福した。**11:21** 信仰によって、ヤコブは死のまぎわに、ヨセフの子らをひとりびひとり祝福し、そしてそのつえのかしらによりかかって礼拝した。**11:22** 信仰によって、ヨセフ

はその臨終に、イスラエルの子らの出て行くことを思い、自分の骨のことについてさしずした。(ヘブル人11:17-22)

アブラハムは、神がイサクを通して、子孫を与えてくださると約束されたことを知っていました。したがって、神は、イサクを死から救うか、死からよみがえらせる必要がありました。いずれにしても、アブラハムは、神がお約束を果たしてくださるお方であると確信していたので、約束の成就によって授かった息子を祭壇に捧げました(参照:創世記第22章、驚くべき信仰の物語)。イサク、ヤコブ、ヨセフは、それぞれ、死に際に、神の約束の将来の成就を確信していることを示す言葉を語りました。

次に、モーセ(とその家族)の信仰が強調されています。モーセは、エジプトの強力な力に対抗して神の民と共に立ち、最終的に出エジプトとイスラエル国家の誕生を導きました。ここが、この章で最も長い信仰の物語である事実は、ヘブル人の聴衆が大いに尊敬していたモーセの重要性を示します。

**11:23** 信仰によって、モーセの生れたとき、両親は、三か月のあいだ彼を隠した。それは、彼らが子供のうるわしいのを見たからである。彼らはまた、王の命令をも恐れなかった。**11:24** 信仰によって、モーセは、成人したとき、パロの娘の子と言われることを拒み、**11:25** 罪のはかない歓楽にふけるよりは、むしろ神の民と共に虐待されることを選び、**11:26** キ

リストのゆえに受けるそしりを、エジプトの宝にまさる富と考えた。それは、彼が報いを望み見ていたからである。**11:27** 信仰によって、彼は王の憤りをも恐れず、エジプトを立ち去った。彼は、見えないかたを見ているようにして、忍びとおした。**11:28** 信仰によって、滅ぼす者が、長子らに手を下すことのないように、彼は過越を行い血を塗った。**11:29** 信仰によって、人々は紅海をかわいた土地をとおるように渡ったが、同じことを企てたエジプト人はおぼれ死んだ。

(ヘブル人23-29)

モーセとその両親は「天における報酬」に目を留めました。一時的な見返りに基づいて生きていませんでした。イスラエルがカナン(ヨシュア記)を征服して以降、預言者たちの時代の終わりまで、信仰を貫く多くの例を挙げて、この章は締めくくられます。ここで注目すべきは、名前が挙げられていない人たちによる信仰の行いのリストです(旧約聖書の話に精通している聴衆は、これらの有名な信仰の話の多くに名前を付けることができたに違いありません。)。ここで、私たちには、真の信仰が行動につながることを思い起こさせます。

**11:33** 彼らは信仰によって、国々を征服し、義を行い、約束のものを受け、ししの口をふさぎ、**11:34** 火の勢いを消し、つるぎの刃をのがれ、弱いものは強くされ、戦いの勇者となり、他国の軍を退かせた。**11:35** 女たちは、その死者たちをよみがえらせてもらった。ほかの者は、更にまさったいのちによ

みがえるために、拷問の苦しみに甘んじ、放免されることを願わなかった。11:36 なおほかの者たちは、あざけられ、むち打たれ、しぼり上げられ、投獄されるほどのめに会った。11:37 あるいは、石で打たれ、さいなまれ、のこぎりで引かれ、つるぎで切り殺され、羊の皮や、やぎの皮を着て歩きまわり、無一物になり、悩まされ、苦しめられ、11:38 (この世は彼らの住む所ではなかった)、荒野と山の中と岩の穴と土の穴とを、さまよい続けた。(ヘブル人33-38)

上記のリストから、これらの信仰の人々の中には、この人生で大きな勝利を経験した人もいれば(ヘブル人11:32-35a)、屈辱的な苦しみを経験した人もいることに注意してください(ヘブル人11:35b-38)。結果は問題ではありません。むしろ、勝利や苦痛の中で、彼らがいかに神の永遠の報酬に目を留めたかが重要です。誰かが「のこぎりで引かれ」という言及は、旧約聖書の預言書「イザヤの殉教」によると、イエス様の時代のユダヤ人によって価値が置かれていた書物ですが、旧約聖書の「靈感を受けた」書物と同等ではありません。

この章の終わりの要約は、上記の挿入句(ヘブル人11:13-16)と非常によく似ており、旧約聖書時代のほとんどの信仰の人々が彼らに約束された神のご計画とお目的の究極の成就を見るために生きていなかったことが強調されています。彼らは、個々の生活の状況がいかに展開されたかに関係なく、永続的な信仰を行使しました。

11:39 さて、これらの人々はみな、信仰によってあかしされたが、約束のものは受けなかった。11:40 神はわたしたちのために、さらに良いものをあらかじめ備えて下さっているので、わたしたちをほかにしては彼らが全うされることはない。

(ヘブル人39, 40)

この聖句は、私たちの前に生きた信仰の人々が、神の壮大な物語と今日の私たちの地上の物語に結びついていることを教えています。彼らがどの様に生きたかは、彼らの忠実な足跡をたどった人々に影響を与え、そして時代を超えて、私たちに影響を与えました。今、私たちは、後ろから続く人々のために信仰の足跡を残すように勧告されています。1988年に、ステイブ・グリーンによって、力強い曲「Find Us Faithful」が収録されました。これはヘブル人の手紙第11章に基づいています。このノート最後の歌詞を読んでください。YouTubeまたはインターネット等で、曲を聴くことができます。

### 忍耐をもって競走を走りぬく：12：1-13

ここで著者は、聴衆にローマの闘技場に自身が立っていることを想像するよう促します。多くの証人が雲のように囲み、レースを見守っている中、この手紙の受取人は、競走の走者です。

12:1 こういうわけで、わたしたちは、このような多くの証人に雲のように囲まれているのであるから、いっさいの重荷と、からみつく罪とをかなぐり捨てて、わたしたちの参加すべき競走を、耐え忍んで走りぬこうではないか。12:2 信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもいとわないうで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである。12:3 あなたがたは、弱り果てて意気そそがないために、罪人らのこのような反抗を耐え忍んだかたのことを、思いみるべきである。(ヘブル12:1-3)

忍耐をもってレースを走る前に、走者はすべての障害物を取り除く必要があります。私たちが簡単に巻き込む「罪」は、各個人の競走を妨げる「特定の罪」への言及です。私たちが走るとき、忍耐強くレースを走り切られたイエス様に目を向けます。イエス様こそ、信仰による忍耐を完璧に示されたお方、完全な手本です(ヘブル12:2)。私たちの先に行った、すべての偉大な信仰の男女を意識して、レースを走ります。イエス様こそが究極の証人です。私たちの信仰の著者であり、完成者であるイエス様から目を離してはならない。

私たちが走るとき、父なる神は訓練してくださる。

私たちが走るとき、私たちが成長させ、強めるために、父なる神がもたらしてくださる訓練(矯正)を経験します。この

意味で、神の訓練は神からの「裁き」ではなく、むしろ、神の真の子供たちがさらに速く、遠くまで走るのを助けることを目的とした愛情深い父の建設的な矯正です。

12:4 あなたがたは、罪と取り組んで戦う時、まだ血を流すほどの抵抗をしたことがない。12:5 また子たちに対するように、あなたがたに語られたこの勧めの言葉を忘れていない、「わたしの子よ、主の訓練を軽んじてはいけません。主に責められるとき、弱り果ててはならない。12:6 主は愛する者を訓練し、受け入れるすべての子を、むち打たれるのである」。12:7 あなたがたは訓練として耐え忍びなさい。神はあなたがたを、子として取り扱っておられるのである。いったい、父に訓練されない子があるだろうか。12:8 だれでも受ける訓練が、あなたがたに与えられないとすれば、それこそ、あなたがたは私生子であって、ほんとうの子ではない。12:9 その上、肉親の父はわたしたちを訓練するのに、なお彼をうやまうとすれば、なおさら、わたしたちは、たましいの父に服従して、真に生きるべきではないか。12:10 肉親の父は、しばらくの間、自分の考えに従って訓練を与えるが、たましいの父は、わたしたちの益のため、そのきよさにあずからせるために、そうされるのである。12:11 すべての訓練は、当座は、喜ばしいものとは思われず、むしろ悲しいものと思われる。しかし後になれば、それによって鍛えられる者に、平安な義の実を結ばせるようになる。12:12 それだから、あなたがたのな



えた手と、弱くなっているひざとを、まっすぐにしなさい。12:13 また、足のなえている者が踏みはずすことなく、むしろいやされるように、あなたがたの足のために、まっすぐな道をつくりなさい。(ヘブル人12:4-13)

これらの人々が経験していた「訓練」は、彼らの何人かがイエス様から遠ざかる原因となった迫害に直接関係していました。「12:4 あなたがたは、罪と取り組んで戦う時、まだ血を流すほどの抵抗をしたことがない。」彼らは文化と統治当局からの抑圧を経験していました。しかし、著者は、神の視点から、この抑圧を見るようにと勧告しています。最後の行で、競技場に戻ります。彼らが、最後まで、強く走り切ることができるように、弱い部分を強化します。

父なる神は、苦痛を伴う方法をお用いになっても、子供たちを訓練され、義の平和の実が私たちの生活の中で、より明白になるように働かれます。神の訓練を決して「罰」と間違えないでください。神は子供たちを非難したり、裁いたり、罰したりなさいません。しかし、愛情を込めて「成長」させ、人生の状況を用いて、私たちの内なる仕事を成し遂げられます。ですから、試練や困難に直面したとき、神に「なぜ」と尋ねても役に立ちません。むしろ、「このような状況を通して、私に何を訓練させようとしておられるのでしょうか？」と尋ねましょう。

## お互いに気を配る：12：14-17

ヘブル人への手紙には、特に信仰が試されているときに、神との歩みにおいて「互いに」励まし合うように召されている箇所が多くあります。ここでもまた、同じ勧告をしています。試練にしっかりと立ち向かうには、お互いが必要です。

12:14 すべての人と相和し、また、自らきよくなるように努めなさい。きよくならなければ、だれも主を見ることはできない。12:15 気をつけて、神の恵みからもれることがないように、また、苦い根がはえ出て、あなたがたを悩まし、それによって多くの人が汚されることのないようにしなさい。12:16 また、一杯の食のために長子の権利を売ったエサウのように、不品行な俗悪な者にならないようにしなさい。12:17 あなたがたの知っているように、彼はその後、祝福を受け継ぐと願ったけれども、捨てられてしまい、涙を流してそれを求めたが、悔改めの機会を得なかったのである。

(ヘブル人12：14-17)

ヘブル人手紙の難しい「勧告の聖書箇所」を理解して解釈しようとするとき、(例：6：4-8、10：26-31)、旧約聖書の信仰の例を見ることは理解に役立ちます。エサウと現在の「ヘブル人」の聴衆の間で問題は異なるものの、原則は同じでした。エサウは、長子の権利に背を向けました。長子の権利を重視せず、弟のヤコブに一食と引き換えに譲りました(創世記25：29-

34)。長子としての将来の相続の約束よりも、目先の食欲を満たす方が重要でした（背教した人々は、迫害からの即時の保護と引き換えに、イエス様に背を向けていました。）。その後エサウは、失ったものに気づき、後悔しましたが、その状況を変えることはできませんでした（創世記 27：30-38）。背教した人々は、後戻りすることはできません。「ふたたび悔改めにたち帰ることは不可能である（ヘブル人 6：4-6）。エサウは、即時の見返りのために、将来の相続の約束を放棄したという点で、永続的な信仰の反対を例示しています。

#### 地上のシナイ山と天の都との対比：12：18-29

ヘブル人への手紙は、イエス様の優位性と、イエス様が神と人類との間を仲介してくださる新しい契約であることを示すための対比が並んでいます。ここで、モーセの律法がイスラエルに与えられた場所、シナイ山と、比喩的に神が住む天の永遠の「都」を指す「シオン」との最後の対比に移ります。イスラエルの民は、シナイ山から燃える火、黒雲、暗やみ、あらし、ラッパの響き、ことばのとどろきなどの現象を見聞きしたとき、実に恐れしました。だとすれば、現在の聴衆は、御子イエス・キリストの人格と御業を通して、一度限りすべての人のために語られた神に、畏敬の念を抱いて生きるべきではないでしょうか。

**12:22** しかしあなたがたが近づいているのは、シオンの山、生ける神の都、天にあるエルサレム、無数の天使の祝会、**12:23** 天に登録されている長子たちの教会、万民の審判者なる神、全うされた義人の霊、**12:24** 新しい契約の仲保者イエス、ならびに、アベルの血よりも力強く語るそそがれた血である。**12:25** あなたがたは、語っておられるかたを拒むことがないように、注意しなさい。もし地上で御旨を告げた者を拒んだ人々が、罰をのがれることができなかつたなら、天から告げ示すかたを退けるわたしたちは、なおさらそうなるのではないか。（ヘブル人 12：22－25）

**12:28** このように、わたしたちは震われない国を受けているのだから、感謝をしようではないか。そして感謝しつつ、恐れかしこみ、神に喜ばれるように、仕えていこう。**12:29** わたしたちの神は、実に、焼きつくす火である。（ヘブ12：28，29）

ここで信者は「天国に在籍する長子たちの教会」と表現されています。イエス様は「すべての被造物の長子」であり、「死人の中から最初にお生れになった長子」です（参照：コロサイ 1：15-18）。信者は「長子（イエス様）の教会」であり、彼らの名前は「天国に在籍」します。天国に入ると、「義人の霊は完全になります」（もはや罪はありません）。ここでのポイントは、私たち信者は、非常に壮観で優れたものの共有者であるため、他の体系や選択に戻るべきではないということです。

### 最終的な勧告：13：1-19

手紙の主な議論は終了しました。著者は、人々が一致して永続的な信仰を行使し続けながら、神の家族の生活を導くように設計された一連の実践的な勧告で閉じます。

- 兄弟姉妹を愛しなさい（ヘブル人13：1）。
- 旅人をもてなしなさい（ヘブル人13：2）。
- 投獄された兄弟たちを配慮し、苦しめられている人々をあわれみ訪問しなさい（ヘブル人13：3）。
- 道徳を守る生活を送り、結婚における性的交わりを尊びなさい（ヘブル人13：4）。
- 金銭を愛する生活を避け、満ち足りる心を実践なさい（ヘブル人13：5）。
- イエス様のみ言「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」を覚えてなさい（ヘブル人13：5）。（つまり、完全に保証されていて、決して一人ではありません。）
- 神が必要を満たしてくださるために忠実でいてくださることを信じなさい（ヘブル人13：6）。
- 神のみ言を教えた人々を敬い、模倣しなさい（ヘブル人13：7）。
- 異なった教えに惑わされてはならない（ヘブル人13：9）。
- 私たちのために苦しんでくださったキリストのほずかしめを喜んで自分のものとしなさい（ヘブル人13：10-14）。
- 絶えず神に喜ばれる賛美の犠牲をささげなさい（ヘブル人13：15）。

- 善行を怠ってはいけません（ヘブル人13：16）。
- 神があなたに与えられた霊的指導者に従いなさい（ヘブル人13：17）。
- 著者とその仲間のために祈ってください（ヘブル人13：18,19）。

### 最終祝祷：13：20-25

13:20 永遠の契約の血による羊の大牧者、わたしたちの主イエスを、死人の中から引き上げられた平和の神が、13:21 イエス・キリストによって、みこころにかなうことをわたしたちにして下さり、あなたがたが御旨を行うために、すべての良きものを備えて下さるようにこい願う。栄光が、世々限りなく神にあるように、アアメン。13:22 兄弟たちよ。どうかわたしの勧めの言葉を受け入れてほしい。わたしは、ただ手みじかに書いたのだから。13:23 わたしたちの兄弟テモテがゆるされたことを、お知らせする。もし彼が早く来れば、彼と一緒にわたしはあなたがたに会えるだろう。13:24 あなたがたの指導者一同と聖徒たち一同に、よろしく伝えてほしい。イタリヤからきた人々から、あなたがたによろしく。13:25 恵みが、あなたがた一同にあるように。（ヘブル人13：20-25）

## 信仰の人でありますように - スティーブグリーン

私たちは狭き道を旅する巡礼者です、  
そして、先に行った人々が道に続いています。  
信仰の人を応援し、疲れた人を励まし、  
彼らの人生は、神の持続的な恵みの感動的な証です。  
多くの証人に雲のように囲まれて、レースを走りましょう、  
報酬のためだけでなく、先に行った人たちがそうした様に、  
敬虔な生き方を通して受け継がれてきた忠実さの遺産を、  
後続く人々に残すために。

後続くすべての人に、  
わたしたちが信仰の人と映りますように。  
私たちの献身の火が彼らの道を照らしますように。  
残した足跡が、彼らを信仰に導き、  
生きる人生は、彼らが従うように促しますように。  
後続くすべての人に、  
わたしたちが信仰の人と映りますように。

私たちのすべての希望と夢が行き来した後、  
私たちが残したすべてを子供たちがふるいにかけるとき、  
彼らが発見する手掛かりと明らかにする記憶が、  
一人一人が見つける必要のある道へと  
彼らを導く光となりますように。

繰り返し…

## ディスカッションの質問

1. ヘブル人 11:1,6 を読み、この部分の初めにおいて、「聖書的な信仰」は、どのように説明されていましたか？この章は、「信仰」について何を教えますか？
2. 忍耐強い信仰の多くの例がヘブル人への手紙第 11 章にリストアップされています。一番際立つ例は誰ですか (アベル、エノク、ノア、アブラハム、サラ、イサク、ヤコブ、ヨセフ、モーセなど)？なぜですか？
3. ヘブル人第 11 章 29-39 節は、名前が挙げられていない他の多くの忠実な信者について説明しています。彼らの生き方はどのようにチャレンジしますか？
4. ヘブル人第 12 章 1-3 節は、私たちにどの様にチャレンジし、刺激を与えますか？
5. ヘブル人第 13 章には、多くの勧告が記されています。際立つのはどの勧告ですか？